

# マークテック 受託生産ビジネスに本格参入 海外事業で培った技術力などに強み

マークテック(東京・大田区、西本圭吾社長)は、探傷剤や洗浄剤などといった化学品の受託生産ビジネスを国内で本格的に開始する。昨年から準備を進め、すでに特設ホームページも開設し、今後自社工場を持たないメーカーなどに対し潜在需要の掘り起こしに向けて、広くアピールしていく。

同社では、約3年前から工場を持たない化学系から現地子会社を通じて中国・フランス・アメリカや韓国やタイなどでOEM供給などから、消防法上の給付ビジネスを展開しており、海外での受託生産技術で培ったノウハウと化学分野における高い製品開発力や技術力を持つ。こうしたなか、同社マーケティング部門では、国内でのニーズについて本格的なヒアリング調査を実施。その結果、自社

多種多様な溶剤や製品に対応した生産設備や検査設備を配備し、高い品質・維持管理体制を有する。

受託生産製品例として探傷剤や分散剤のほか、脱脂洗浄剤、防錆剤、離型剤、塗料、インクなどの依頼を見込んでおり、危険物・非危険物を問わず小ロットから柔軟に対応していく考えだ。

同社成田工場(千葉県成田市)



受託生産品例



製品保管倉庫は工場内敷地に5棟備え、受託生産品を安全に保管し、在庫・在庫管理システムのもと、スピーディな発送が可能となっている。また現状、容量100〜1200リットル規模の製造タンク13基を有するが今

後、新たに1750リットルのタンク3基を増設するほか、工場自動化に向けても積極的な設備投資を図っていく考えだ。

西本社長は「当社には専門の開発部隊があり、顧客ニーズに合致した製品開発を行うことができ

量を現行の約2倍にまでい」と話し、厳格な品質増産できる体制になると管理体制のもと、受託生とともに、さらなる業務の産を通して顧客の課題解決効率化を図っていく決意を述べていく。

産報出版株式会社 発行

検査機器ニュース 第1464号 (2022年3月20日)